（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（北アルプス地域）

令和６年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大糸線利用促進事業
事業主体 （連絡先）	小谷村大糸線振興会議 小谷村大字中小谷丙 131 番地
事業区分	(6)産業振興及び雇用拡大に関する事業（ア 特色ある観光地づくり）
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,466,641 円（うち支援金：　330,000 円）

事 業 内 容

(1)スマートフォンゲームアプリを活用したデジタルスタンプラリー実施

イベント期間：令和６年８月１日～12 月 31 日予定

場所：大糸線（南小谷駅～糸魚川駅）区間、大糸線沿線

イベントに参加し、全てのスポットに訪れたユーザーの方を対象にキャラクターカード及びステッカーを配布する。

(2)中土駅シェアサイクルの活用

・観光スポットやカフェ等にスタンプラリー台紙とスタンプを設置する。月毎に周遊場所を変化させることで飽きない自転車コンテンツを創出

7 月～9 月　：中谷観光スポット　9 月～11 月：土谷景観スポット



【駅メモキャラクターイメージ】

【目標・ねらい】

①ゲームで楽しみ、乗って楽しむ
②グッズ、ノベルティを集め楽しむ
③自転車置場中土駅舎雰囲気提供
④車窓からの北アルプスの提供

事 業 効 果

・ゲーム会社による期間中のゲーム参加者数は約 9,175 人となった。

ゲーム内において全ての目標を達成した方は約 3,687 人おり、多くの方から大糸線に興味を持っていただいた。

また、増便バスが運行されていたためイベントへの参加がしやすくなり、より多くの方に利用していただけた。なお、実際の大糸線鉄道利用者数については、R6 の輸送密度は R7 の発表になるため、JR 西日本に今年度の利用状況を確認したところ、概ね R5 の 1.3 倍程度の増加があったとの回答を得たため、R5 の輸送密度から算出すると R5 が 110 人/日×1.3 倍＝143 人/日となり、年度間で算出すると、52,190 人/年となり、前年より約 12,000 人程度増加したことになる。

・中土駅シェアサイクルのスタンプラリーについては、達成者が 7 件となり、自転車利用者も R6 において、26 件の利用者があり他県から来村して使用した方もあって中土駅周辺が大変賑わった。

※自己評価【A】

【理由】

R6 の大糸線鉄道利用者数は、R7 発表になるため、JR 西日本金沢支所に今年度の利用状況を確認した所、概ね R5 の 1.3 倍程度の増加があったとの回答を得たため、R5 の輸送密度から算出すると R5 が 110 人/日×1.3 倍＝143 人/日となり、年度間で算出すると、52,190 人/年となり、前年より約 12,000 人程度増加したことになる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。（今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など）。

大糸線の魅力を伝えていくために、「スマホゲーム」とグッズ製作販売、、またシェアサイクルスタンプラリーを行い、ゲーム参加者については多数の参加人数が有り、大糸線利用に関してもかなりの効果があったと考えられる。

引き続き村振興部会では大糸線利用促進に向けて継続した取組みを実施し、住民や民間事業者と連携する中で魅力ある情報発信とイベントを企画していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある